

マンホール等被災調査範囲 3月19日時点まで



1. 調査可能であった範囲の中で、マンホール蓋損壊箇所数箇所あり
対応可能箇所は対応済みなので、危険なところは現時点では無い
瓦礫が残っている箇所のマンホールは確認が出来ないが、順次確認を進める予定。
2. 地盤の液状化現象によるマンホールの浮き上がりは観察されていない。一部周辺地盤沈下がある。
3. マンホール間の管路に土砂等流入物の恐れがあるが、現時点では確認できない。
4. 津波被災区域以外(地震のみ)のマンホール、管路については、若干のひびがあるところがあるが、目立った被害は無かった(上平田処理区)。

